

**「考察」**

今回の研究により、薬局店頭健診は、従来の健診方式ではどうしても受診しなかった若年齢層やある種の異常所見者等の利用を促し、その検査群には『要再検』『要精検』と評価された利用者が明らかに多いことがわかった。

また、自宅健診受診者および薬局店頭健診利用者は、自らの生活習慣の改善に積極的であることがわかった。

薬局店頭健診の仕組みは、自分の生活圏内にいつもある健診場所であり、若年齢層や多くの未病の方の生活習慣病の早期発見や予防のために機能するものと考えられる。

**「謝辞」**

本研究に御支援と御協力を賜りました  
 一般財団法人 日本健康増進財団  
 常勤理事 鈴木 賢二 先生  
 に感謝申し上げます。

## 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金

(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

研究課題「セルフケア・セルフチェックを支援する医療提供体制と一般用医薬品の役割に関する研究」

### モデル薬局/地域におけるセルフケア・セルフチェックの支援体制

研究協力者:加藤昇一、持田鉄平(加藤回陽堂薬局)

薬局/地域:神奈川県

#### 1. 生活者のセルフケア・セルフチェックを支援する取り組みの内容

生活者のセルフケア・セルフチェックを支援するうえで、患者が医療機関から受け取る検査値結果表は情報の宝庫である。薬局を訪れる患者の多くが、処方箋と一緒に検査値結果表を持参している。

中区薬剤師会は、検査値から食事の傾向と過不足栄養素を読み取り、適切な指導を行うことで、患者のセルフケアを強力に支援できるのではないかと考えた。

しかし薬剤師には検査値、食事、栄養の知識が十分とはいえないため、管理栄養士を講師に招いて食事と栄養の講義を受ける「からだにエーゼミ」を開催して勉強することとした。

エーゼミの準備過程で「食事と栄養」は薬剤師だけでなく他の医療スタッフにとっても関心が高く、またそれぞれの専門分野において関わりの深いトピックスであることが分かった。そこで、地域の医療スタッフに広くエーゼミへの参加を呼びかけ、エーゼミを地域医療連携の場にする 것도目標とした。

参加者はエーゼミで得たスキルを活かして、患者の検査値結果・食事記録などから適切なアドバイスを行い、生活習慣改善への協力につとめている。

今年度は歯科医師会と協力して、「薬局におけるデンタルホームケアの啓蒙とセルフケア用品の提供、RD テストと歯科へのエスコートサービス」にも取り組んでいる。

#### 2. 健康相談等、医療連携を行うために実施した薬剤師への教育内容(コミュニケーションスキルも含む)

勉強会(エーゼミ)の目的の1つとして、地域医療を行う者同士が顔の見える関係になることを挙げているため、講演していただく講師には極力、地域で開業している方に依頼している。また質問や雑談する時間を設ける様にして、よりコミュニケーションを図りやすい関係作りに尽力している。

さらに動的な勉強会として、SMBG 体験講習会や COPD のデバイス体験会、実際の調理実習なども取り入れて、講師と参加者はもちろんのこと、参加者同士が話せる機会も設けている。(主な勉強会の内容は資料参照)

### 3. セルフケア・セルフチェックから受療へつなげる仕組み(薬局と医療機関、他医療職種との役割、連携の方策等)

エーゼミによって、医師と薬剤師、栄養士などが顔の見える関係となるため、円滑な疑義照会や受診勧奨、各々の領域での専門的アドバイスの受容、共有に役立つ。

### 4. 使用しているツールや書式(例:情報共有の iPad アプリ、医療機関への紹介状など)

毎回、エーゼミの参加者にはその月毎の旬の食材を活かしたレシピ集、栄養指導に役立つ情報リーフレット(例・おやつのかぼか、80kcal を消費するには、調味料の塩分、など)を提供している。

年度末には「エーゼミ虎の巻(疾患別検査値の見方と栄養指導)」を配布し、検査値スペシャル、開催時には「ワンポイントレッスン(虎の巻の抜粋一覧表)」を配布している。

また、管理栄養士監修のもとエーゼミオリジナルの症例フォーマットを作成し、患者から得た食事記録と検査データなどを記入して管理栄養士に送ることで直接アドバイスを貰えるようにしている。

(エーゼミ症例フォーム参照)

### 5. 取り組みを行う上で考慮した点、関係者との決め事など

エーゼミ参加者が受け身だけの研修会にするのではなく、自らも動け、参加することによりコミュニケーションの輪が広がるような研修会の構築を考慮している。

またミーティング等でアンケート結果を吟味し、より参加者のニーズに沿えるようにしている。

地域医師会・歯科医師会へは開催当初からエーゼミの趣旨を説明し、ミニ講座講師の依頼なども行っている。

福祉関係者への参加を呼びかけのために、中区7カ所の地域ケアプラザに対して、各担当薬剤師が個別にエーゼミの案内を行っている。(事前に中区薬剤師会から中区行政へのエーゼミの趣旨説明と参加依頼を行った)

### 6. 取り組みにより得られたアウトカム(評価方法など)

今年度の目標は、糖尿病、高血圧、脂質異常症、高尿酸血症の患者を対象に、検査値・食事記録への定期的なアドバイスを行い、検査値と薬剤費の変化、患者満足度(体調・病欠日数など)を追跡することである。

具体的な検査項目としては、共通項目としてAST、ALT、BMI、糖尿病患者のA1c、高血圧患者の早朝血圧値、脂質異常症患者のLDLコレステロール値、HDLコレステロール値と中性脂肪値、高尿酸血症患者の尿酸値を管理栄養士と医師と連携を取りながら追跡することとする。

歯科医師会との協力事業においては、薬局を訪れる生活者を対象に、取り組み前後の歯科受診率

の変化、啓蒙後のセルフケア用品(フロリデーショとキシリトール摂取など)使用による口腔内環境の変化(唾液検査結果とDMF 指数など)と患者満足度、受診率の動態を、歯科医師会と共同で評価してゆく。

## 7. 検討課題

検討期間は介入後1年とする。

期間中は服薬アドヒアランスについても十分留意し、食事と栄養のアドバイスに沿って生活習慣の改善または変化が生じた場合に、患者の病状悪化や健康被害を招くことのないようにする。具体的には、処方医に対しても食事と栄養のアドバイスを行うことを知らせ、患者には体調の変化があった場合、医師または薬剤師に知らせるよう説明することとする。

歯科医師会からも共同事業チームが結成されることとなり、今後はエーゼミチームと合同で実施してゆく。6月上旬に合同ミーティングを行い、8月1日には歯科医師会・薬剤師会の共催研修会を行う。

## 8. 今後の展開

薬剤師、医師、歯科医師、管理栄養士、福祉関係者等、多職種が参加する会へと成長していることから、多くのメディカルスタッフが栄養指導の重要性を感じていることが分かる。栄養学の知識は大変有効であり、さらに疾患と病態の講座で得た臨床の現場の知識が、患者に対して自信を持って栄養指導を行える裏付けとなっている。また多職種との顔の見える関係の構築は、地域医療連携、チーム医療、そしてセルフメディケーションの推進にも繋がるものと考えられる。

今後さらに食事と栄養について学び、現場での実践経験を積み、症例を重ねて、患者の生活習慣改善に勤めたい。また、薬剤師が薬局で行うことのできる様々なバイタルチェックと病状の聞き取り、カウンセリングなどについても習熟し、医療界における交通整理(薬局で治せるモノはしっかりとセルフメディケーションを薦め、範疇を超えるモノは最適な医療機関への受診勧告を行うこと)が出来る者の育成の場としたい。そのためには、適切なトライージを行うための基本的な知識として、症候学を学ぶことが必要であると考え。来年度のエーゼミでは「薬局トライージに必要な症候学」を連続開催する予定である。

## 9. その他

< 栄ゼミの概要 >

横浜市中区薬剤師会会員より有志を募り、また東邦薬品株式会社の栄養チームより管理栄養士、及

び担当 MS を含め全16名の研修会実行委員で構成される。

研修会実行委員の主な役割として薬剤師会会員はカリキュラムの作成、近隣の医師・歯科医師などへの講演依頼、チラシ作成、会員季刊誌への掲載、受付・司会進行、薬剤師研修シールの申請、参加者募集、アンケート作成・集計。

東邦薬品株式会社の管理栄養士は各テーマに沿った栄養学の講演。

担当 MS は医師・歯科医師などへの講演依頼、参加者募集・名簿作成。

打ち合わせは基本的に月1回、研修会の終了後に行い、

それ以外に関しては研修会実行委員でメーリングリストを使い、情報の共有をしている。

タイムスケジュールとしては最初の10分、各テーマに沿った医薬品の製品説明。

その後、50分の時間を設けて近隣の医師、歯科医師等からの講演。

10分の休憩後に、50分の時間を設けて管理栄養士からの講演。



## 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金

(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

研究課題「セルフケア・セルフチェックを支援する医療提供体制と一般用医薬品の役割に関する研究」

### モデル薬局/地域におけるセルフケア・セルフチェックの支援体制

研究協力者名：中村敏明

薬局/地域：福井県永平寺地区、坂井地区

#### 1. 生活者のセルフケア・セルフチェックを支援する取り組みの内容

地域薬局を連携拠点とした地域医療連携システムを構築し、生活者の健康維持から介護までを総合的にサポートする。

#### 2. 取り組みを始める前の具体的な準備(医師会、保健所等との調整、広報など)

地域の中核を担う、薬局、かかりつけ医療機関、専門医療機関の代表者を集め、事前の説明会を開催し、プロジェクトの目的、到達目標、具体的なフロー等の実践に必要な情報を共有した。また、薬局における生活者サポートの実践的な支援として、iPad で活用できるサポートアプリ、生活者向けの店頭ポスターの作製し、配布した。

#### 3. 健康相談等、医療連携を行うために実施した薬剤師への教育内容(コミュニケーションスキルも含む)

早期発見、受診勧奨に必要なチェックリストの配布と、使用方法の周知。専門医による疾患の特徴、経過、標準的な治療の流等に関する講義を行った。

#### 4. セルフケア・セルフチェックから受療へつなげる仕組み(薬局と医療機関、他医療職種との役割、連携の方策等)

来局された 40 歳以上の喫煙歴を有する生活者に対し、息切れ問診票を用いた初期スクリーニングを実施する。その結果、何らかの疾患の存在を疑った場合には、背景等を詳細に聞き取り、必要に応じてかかりつけ医に受診勧奨する。住民の健康維持、疾患コントロールにおいて薬局薬剤師は要の役割を担っている。一連の流れを図 1,2 に示した。

#### 5. 使用しているツールや書式(例：情報共有の iPad アプリ、医療機関への紹介状、チェックシートなど)

息切れ問診票、ACT、CAT、吸入指導支援アプリ(iPad 用)、医療機関への紹介状、連携パス手帳

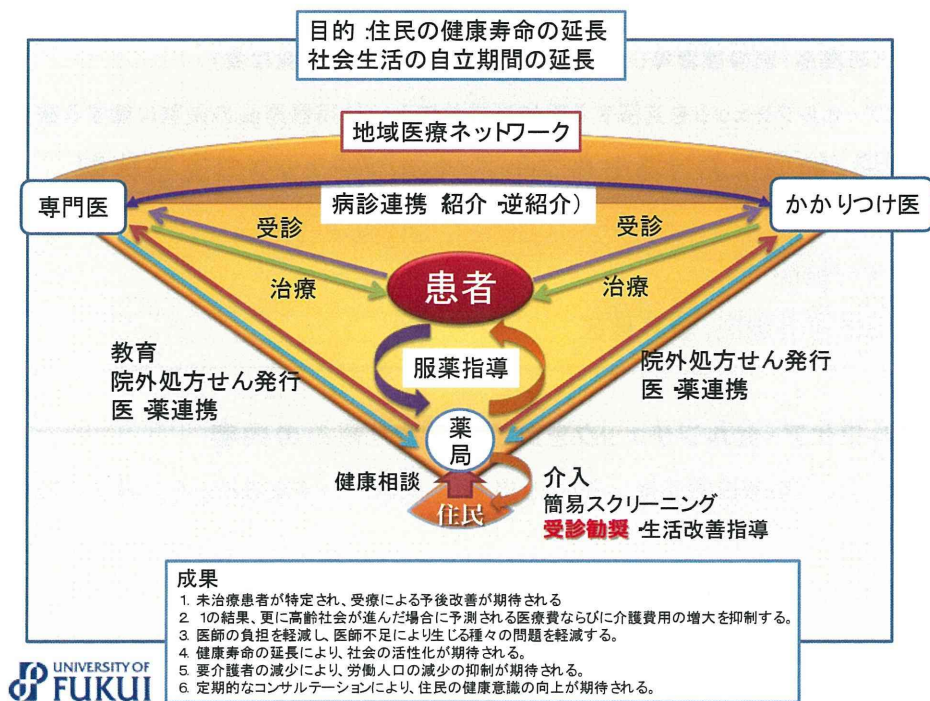


図 1 健康長寿を支える薬局の役割

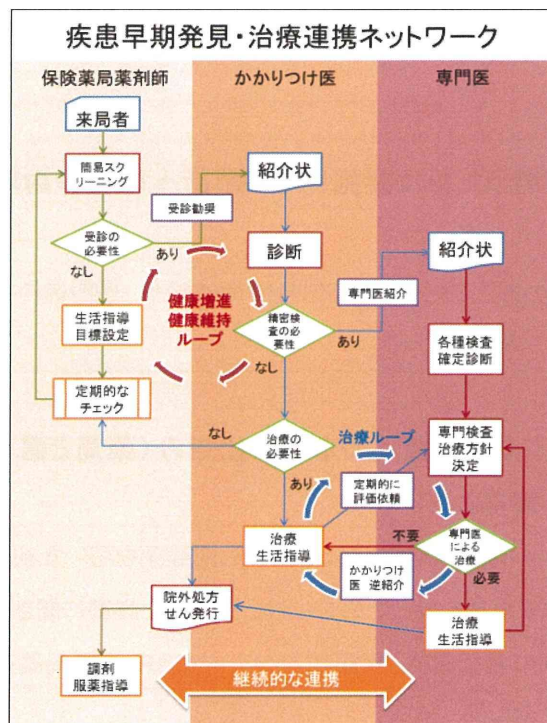


図 2 疾患早期発見・治療連携ネットワーク



## 6. 取り組みを行う上で考慮した点、関係者との決め事など

判断基準を標準化するため、スコア化できるスクリーニング方法を選択し、協力薬局に周知した。また、各薬局の特性や業務の妨げにならないよう考慮し、iPad アプリによる管理、印刷物による管理を自由に選択できるようにした。

## 7. 取り組みにより得られたアウトカム(評価方法など)

息切れチェックによる疾患が潜在しているリスク評価の件数、受診勧奨した件数、そのうち実際に受診して確定診断された件数を評価する。

## 8. 検討課題

先進的な取り組みとして、一部の中核薬局を中心として進めてきたため、対象エリアが限定され、十分なアウトカム評価が可能となる症例数まで達していない。また、疾患も喘息と COPD の慢性呼吸器疾患に限定している。

## 9. 今後の展開

社会的に有用性を示すためには、受診勧奨数だけでは理解が得られにくいと考える。今後は、医療経済、社会経済に与える改善効果についての評価を行いたい。

そのためには、協力薬局の増加、対象エリアの拡大による事例数の増加が必要である。

## 10. 添付資料: 班会議で発表した PPT および活動に使用したツールや薬局での活動・設備等の写真

取り組みを始める前の具体的な準備(医師会、保健所等との調整、広報など)

地域の中核を担う、薬局、かかりつけ医療機関、専門医療機関の代表者を集め、事前の説明会を開催し、プロジェクトの目的、到達目標、具体的なフロー等の実践に必要な情報を共有した。また、薬局における生活者サポートの実践的な支援として、iPad で活用できるサポートアプリ(写真1参照)、生活者向けの店頭ポスター(図3, 4)を作製し、配布した。さらに、患者が自らチェックする問診票(図5)、医師へ紹介する紹介状(図6)と医師からの返書(図7)を準備し、実施薬局へ配置した。実際に薬局で息切れチェックを行い(写真1)、紹介状を記載している様子(写真2)を示した。また、写真3は、専門医へ受診している様子を示した。

**1分でチェック**できます！

そろそろ、**肺の健康**が気になりませんか？



最近、息切れ  
が気になるなあ。

タバコを吸っているけど、  
大丈夫かな…。

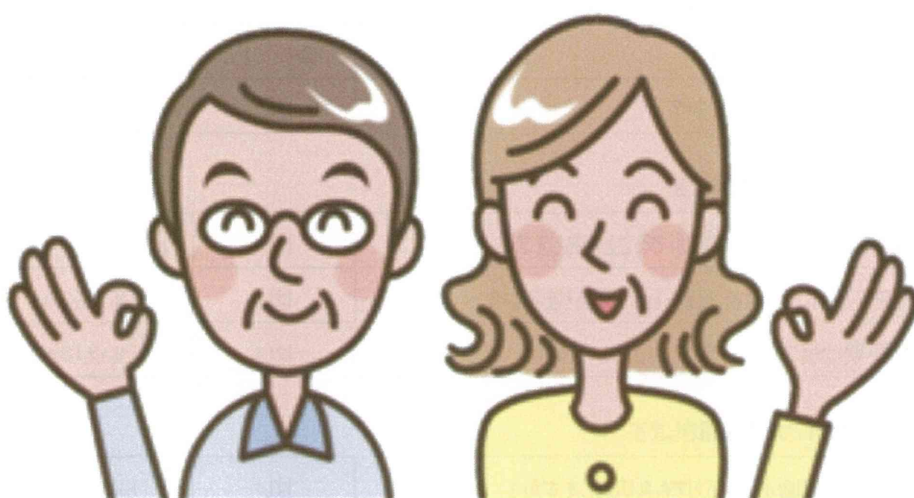
受診したほうがいい  
いんだろうか…。

1つでも思い当たれば、当薬局で**1分健康チェック**！

- ✚ 息切れを、加齢や運動不足によるものと思ってい  
ませんか？
- ✚ 簡単な問診票でチェック。受診の必要があれば、医  
療機関を紹介します。
- ✚ 禁煙のご相談や、禁煙治療を行っている県内医療機  
関の紹介もいたします。

図3 福井いきいきプロジェクトパンフレット①

息切れ、気になりませんか？  
肺の健康を1分でチェックできます！



当薬局は、みなさんの健康長寿をサポートする「福井いきいきプロジェクト」に協力しています。

薬局名

「福井いきいきプロジェクト」は、地域の皆様の健康長寿を推進するため、福井大学、医療機関、薬局が連携して行う、  
炭病の早期発見・治療連携ネットワークです。



図4 福井いきいきプロジェクトパンフレット②

## 問 診 票

ふりがな 氏 名	生年月日 年 月 日生 ( 歳)	男/女	チェック日 年 月 日
-------------	---------------------	-----	----------------

上から順に はい、いいえにチェックをつけ、そこに記載の指示に従って設問にお答えください。

### 1. 喫煙についてお聞きます

現在喫煙していますか？	吸う	やめた(2へ)	吸わない
禁煙する意思はありますか？	はい		いいえ

### 2. 咳・息についてお聞きます

風邪をひいていないのに咳がでることがありますか？	はい	いいえ(3へ)
息をする時にゼイゼイ、ヒューヒューがありますか？	はい	いいえ(3へ)
夜間・明け方に咳込み・息苦しさが多いですか？	はい	いいえ(3へ)

### 3. 息切れ・痰についてお聞きます

ちょっとした階段の上り下りでも息切れしますか？	はい	いいえ(4へ)
風邪をひいていないのによく痰がからみますか？	はい	いいえ(4へ)

### 4. 以下の状態にひとつもあてはまるものがありますか？

寝ていると息が苦しくなることがあるが、起き上がると楽になる	はい	ひとつも
手足の先が冷たく、肌の色が悪い	はい	あてはまらない
顔や足がむくむ(むこうづねを押すと指の跡が残る)	はい	(生活習慣改善)

図 5 福井いきいきプロジェクト問診票（患者用）

患 者 紹 介 状

年 月 日

病院・診療所名

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_先生 御侍史

薬局名：

住 所：

TEL/FAX：

薬剤師：

㊞

当薬局に来局された以下の方をご紹介します。御高診の程よろしくお願い申し上げます。

- 保険による禁煙治療を希望されています
- 下記所見を認めました

ふりがな 患者氏名	生年月日： 年 月 日 ( 歳)	男性 / 女性
現 住		

◆ チェック	_____年_____月_____日
喫煙歴	_____歳から喫煙。 1日_____本喫煙中
禁煙歴	禁煙回数： _____回 使用薬剤： _____ 保険での禁煙治療(有・無)
チェック テスト結	COPD-PS (○をつける) 合計_____点

◆現在行われている薬物治療の内容(薬剤名・用法・用量) その他(健康食品、一般用医薬品など)

図 6 福井いきいきプロジェクト紹介状

返

書

恐れ入りますが、患者さんが受診されましたら、先生の所見をご記入の上、以下までFAXしていただけますようお願いいたします。

FAX No :

紹介元薬局： 薬局

薬剤師名： 宛

医療機関名：

住 所：

TEL/FAX：

医師名：

紹介いただきました以下の方について診察しました。結果をご連絡します。

ふりがな 患者氏名	生年月日： 年 月 日 ( 歳)	男性／女 性
現 住		

◆当院への受診日

平成 年 月 日

◆診察結果

所見等連絡事項

図7 福井いきいきプロジェクト返書



写真 1：アイパッドを使った息切れチェックの実施

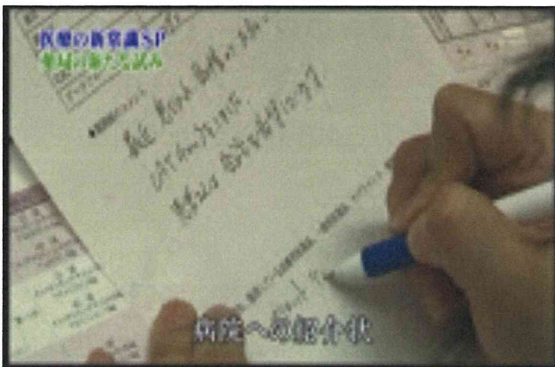


写真 2：紹介状の記載



写真 3：専門医による診察

## 平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金

(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)

研究課題「セルフケア・セルフチェックを支援する医療提供体制と一般用医薬品の役割に関する研究」

### モデル薬局/地域におけるセルフケア・セルフチェックの支援体制

**研究協力者名:** 藤原英憲

**薬局/地域:** 高知県((有)つちばし薬局・高知県薬剤師会県下会員薬局)

#### 1. 生活者のセルフケア・セルフチェックを支援する取り組みの内容

健康相談を通しての地域医師との医療連携をはかった。

日常、OTC医薬品相談や県薬剤師会実施の健康チェック活動(自己血圧等測定などを利用)を通しての医療連携を行っている。

#### 2. 取り組みを始める前の具体的な準備(医師会、保健所等との調整、広報など)

高知県下の薬剤師会会員に「薬局の住民への健康づくり拠点」としての一斉の活動の意義の周知と参加募集(血圧等の積極的自己測定への支援と健康相談)の呼びかけなど

毎月1~2回行われる県薬剤師会や支部の薬局等との研修会での薬局・薬剤師の職能向上のための研修会を開催した。

高知県医師会と協議・連携、地域医療機関・医師との繋がり

健康づくりの薬局として、積極的に地域にその旨を広報するために、地元高知新聞に「くすりと健康の週間」にあわせ、1ページの全面広告を行い、参加薬局・店舗の名前や住所が分かるように記載。

また、店頭から外部に見える健康チェックのできる旨の分かり易いポスターを作成して掲示。(血圧用と体脂肪用を分けて)店頭が目立つところに掲示してもらった。

#### 3. 健康相談等、医療連携を行うために実施した薬剤師への教育内容(コミュニケーションスキルも含む)

積極的に声掛けることや紹介状などを持たせて「できるだけかかりつけ医への受診勧奨」

#### 4. セルフケア・セルフチェックから受療へつなげる仕組み(薬局と医療機関、他医療職種との役割、連携の方策等)

県下の全地域の会員薬局の中で参加希望薬局・店舗を募集した上で事業を開始



## 5. 使用しているツールや書式(例:情報共有の iPad アプリ、医療機関への紹介状、チェックシートなど)

薬局における住民の健康づくり活動(血圧等測定事業)はくすりと健康の週間から1ヶ月間健康チェックリスト表(患者情報:性別、年齢、血圧測定値や正常、異常の有無体脂肪値の正常、異常の有無、健康相談の有無、受信勧奨の具体的内容)を記載する用紙を配布

## 6. 取り組みを行う上で考慮した点、関係者との決め事など

健康づくり支援活動は医師会との協議;この事業の目的を説明、医師会からは血圧の受診勧奨する数値の範囲はどうするか?という質問と、出来るだけ個人医への紹介でなく、「かかりつけ医」宛ての紹介状を持たせることを医師会から要望があり。

受診勧奨の判断はWHOの基準を基に異常値の方を紹介することになる。

## 7. 取り組みにより得られたアウトカム(評価方法など)

自己血圧等検査による健康づくり活動の評価は実施終了後の県全体での健康相談数や受診勧奨数を県下地域別で集計

日常業務における紹介状持参での受診勧奨の場合は、医師からの診療情報提供書が届けられることもある。

## 8. 検討課題

血圧や体脂肪以外の検査も広く県下ですることも必要。個店としての受診勧奨については薬剤師の個人差がある。また健康づくりの拠点となるために適切な健康相談ができる

薬剤師を養成する必要があると思われた。(資質の差があるため一般薬等の相談レベルを研修等でアップする必要があると思われる)

そのためには健康づくりの拠点となりえる薬局薬剤師のための研修会を実施(24年度から毎年行われる日薬の一般用医薬品研修会を基に)し、養成をする。(24年度は研修済み)

また、薬局において、軽度な治療において、生活者のセルフメディケーションの支援ができる一般用医薬品等の積極的な在庫を行うよう指導

## 9. 今後の展開

県下の薬局参加による血圧等測定は次年度も行われている。

(24年度及び25年継続実施予定)

## 10. 添付資料として、発表された PPT ならびに、使用したツールや薬局の写真など

(資料1)

### 県医師会との面談

- ・ 事業について、趣旨、実施期間、内容等を説明
- ・ 医師会役員からご理解、ご了承を頂いた

**受診勧奨の基準値は？**

血圧: WHOの標準値を指標  
(↑140mmHg、↓90mmHg以上で勧奨)  
体脂肪: 厚生労働省資料を参考  
(男性20%、女性25%以上で勧奨)

受診勧奨の紹介状は、  
医療機関・医師の指名ではなく、  
「かかりつけ医様」として欲しい

OK!

## 高知新聞一面広告

小さな病気は自分で治す。自分の健康を守るのが「セルフメディケーション」。

日頃から血圧などもこまめにチェックして健康維持・増進に努めましょう。

### 関連事業

**実施期間: 10月17日～11月16日**

下記リストの◆◆マークのついた薬局には血圧、体脂肪率の自己測定機器があり、無料で測定できます。結果により医療機関への受診等のアドバイスを致します。店頭右のポスターを目印にしてください。

- ◆◆…血圧の測定
- ◆◆…体脂肪率の測定

「薬と健康の週間」  
10月17日～23日

「こうち介護の日2011」  
11月6日 10:00～16:00  
高知市中央公園 高知市庁

10月23日 10:00～14:00  
11月6日 9:30～11:30  
11月23日 9:00～11:00  
12月17日 9:30～11:30

高知市健康情報センター  
http://www.kochi-kensyaku.or.jp/

高知薬剤師会 TEL: 087-827-6428 FAX: 087-827-6734

### 参加施設 店頭掲示ポスター

**セルフメディケーションで**

**メタボに STOP!**

当薬局で  
血圧自己測定 できます  
健康相談 受けたまわります

**セルフメディケーションで**

**メタボに STOP!**

当薬局で  
体脂肪率自己測定 できます  
健康相談 受けたまわります

(資料2)

## 平成23年度 一般用医薬品販売等に関する実態調査

**調査目的:** 一般用医薬品を生活者に供給する際に薬剤師が関与することの有用性を検証するための基礎資料を得るために、一般用医薬品に関する薬剤師の相談対応の事例を収集する

**調査対象:** セルフメディケーション・サポート薬局 970薬局

**調査期間:** 平成23年8月(平成23年7月末にアンケート用紙を配付し、返送期限を8月末日として回答を求めた)

**調査用紙:** 薬局票 薬局に概況に関する設問(1薬局1件)  
事例調査票 個々の相談事例に関する設問(1薬局からの複数件回答可)

**薬局票回収数:** 618(回収率 63.7%)

**事例報告薬局数:** 433(事例を報告した薬局は、1薬局平均2.8件の事例を報告)

**事例報告件数:** 1192(有効回答:1164)

### 受診勧奨により疾患の治療に至った事例 1

80代 男性 グリセリン浣腸指名買いの相談

**相談内容:**

相談対応:ご主人の便が出ないと家族が薬局。腹が張り苦しいと本人が言う。1週間前から、下剤(センナ系)、浣腸もためたが出ないとのことで、手持ちの医療用医薬品とOTCを持参し相談される。出ない事から、腸閉塞など、器質的なもの疑い、すぐにかかりつけ医へ行き検査するように伝え、販売せず。

**転帰:** かかりつけ医より機関病院へ紹介で掛かれた。検査の結果癌により、そのまま入院される

60代 女性 痔治療用坐剤の指名買いの相談

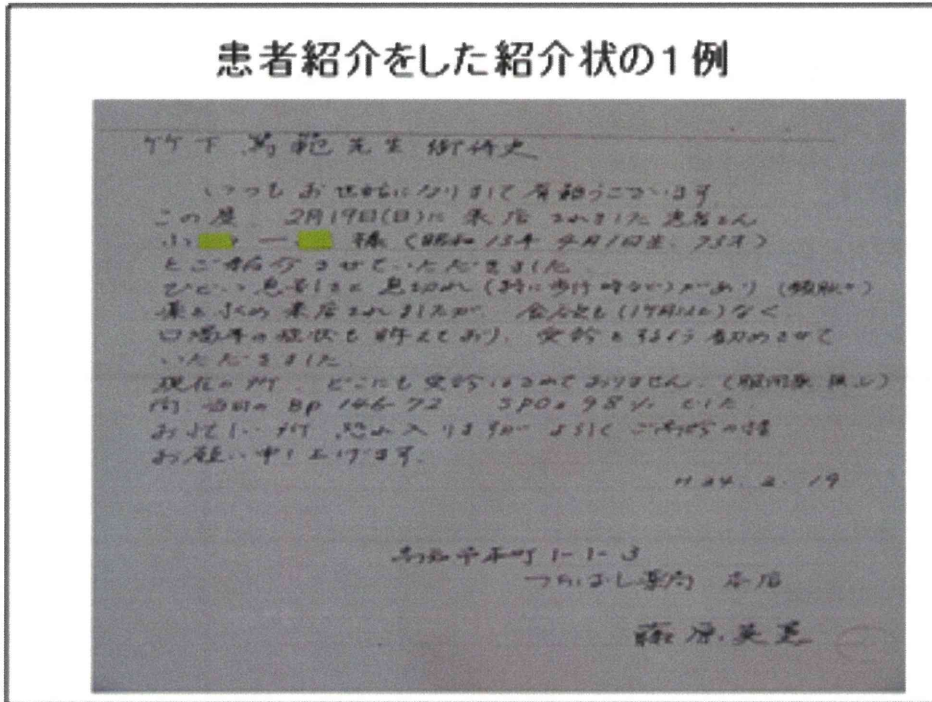
**相談内容:**

3週間前より排便時に少量の出血あり。本人は痔と思い込み痔治療用の坐剤を使用。症状があまり改善しない。今回も同製品の購入希望であったが、症状などから同製品の使用は不適切と考え、早急に総合病院又はかかりつけ医を受診し大腸検査を受けるよう勧奨した。

**転帰:** 総合病院を受診。結果、直腸癌と判明。入院、手術後退院。予後良好。

(資料3)

### 患者紹介をした紹介状の1例



### 患者紹介した医師からの診療情報書例

